聖ペトロ・聖パウロ使徒　2014.6.29

ペトロの信仰告白

マタイ福音書 16 章 13-19

イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。すると、イエスはお答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。わたしも言っておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府（よみ）の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」

カトリックの聖書日課で主日を祝っているとプロテスタントにはなじみのない記念日があります。きょうの主日は「聖ペトロ・聖パウロ使徒」で、わかりやすくいえばペトロとパウロの殉教記念日です。たまたま今年はこの祭日が日曜日にあたり、ふつうの日課ならば年間第 13 主日なのですが、主日では記念日（祝日）が年間予定に優先するというルールできょうの聖書朗読となりました。今年はマタイ福音書を朗読する年に当たっているので 8 月にまた同じところがでてきます。その時にも読むのできょうはすこし聖書本文から離れてちょっと不思議なカトリックの慣習についてわたしの思うところを自由に言ってみます。

カトリックにある聖人という考え方がプロテスタントにはありません。人間はみんな罪びとだから聖なる人＝聖人なんていないだろ、という考え方でも

あるようですが、ちょっと大人気ない、余裕のない見方のようにわたしは思います。聖人は守護聖人ともなり職業別、町別、階級別などさまざまなグループ単位でそれぞれ聖人を守り神のように特別に大切にするという習慣があります。そこいらへんもプロテスタント側からは偶像崇拝という批判の対象になっているようです。聖人の名前は洗礼名（カトリック、聖公会にもある）にも使います。洗礼者が名前としていただいた聖人がその人の守護聖人になり、その聖人の祝日はその人のお祝いの日にもなります。誕生日が年に二回あるような感覚です。日本にはこのようなキリスト教の文化歴史の背景がまったくないので聖人に関しては多くの人が無頓着ですが、似たような信仰に氏神信仰があります。それは自分の生まれた土地、地域の守り神への信仰で具体的には七五三とかお宮参りなどをおこなっています。この手の素朴な信仰はいい悪いではともかくけっこうどこの国・民族にもあるような気もします。（調べたわけではないのですが…）
きょうはペトロ・パウロの殉教記念日となっていますが、これも慣習によるもので聖書を根拠にしているものではありません。プロテスタントはカトリック批判として誕生し、その旗印は「聖書のみ、信仰のみ」でした。単純にいえばカトリックは古いいいつたえ（伝承）を根拠にしているのでけしからんという理屈になります。たしかに古くからの伝統や伝承では証拠を見せろといわれると困ってしまいますが、だからといってまったくのでたらめではないわけで、それなりの訳があって古くからのものを守っているということでしょう。なんでもかんでもわりきってしまうとすっきりとはするでしょうが、一方で痩せたもの貧相なものになってしまう危険があります。

さて教会というとどうしても建物のほうに気がいってしまうのですが、教会（エクレーシア）とは集会、つまり人の集まりの日本語の訳です。ペンテコステで復活したイエスは昇天しました。もう地上にはイエスがいない。そんな状況の中でペトロはイエスは救い主だ、メシアだ、と声をあげます。する

と多くの人がそれを信じた。それがキリスト教の始まりといってもいいでしょう。そのような状況の中にサウロ（パウロの回心前の名前）がいて生粋のユダヤ教徒として彼はキリスト者たちを、つまり生まれたばかりの教会（エクレーシア）を迫害した。あるときサウロに昇天したキリストの声がのぞみ彼は劇的な回心をしてキリストに従った。つまり彼もまたイエスはメシアだと信仰告白した者になったのです。

使徒言行録を読みすすめれば、ほかにも多くの人たちが初期の教会に集まっていたことがわかります。ペトロとパウロの二人のがんばりがあったからキリスト教がはじまったのだと言い切ることはできませんが、この二人の流した血がキリスト教の形成に大きく影響したことに違いないでしょう。彼ら二人が同じ日に処刑されたという偶然はあったかもしれないし、なかったかもしれない。なにしろ文献が残っているわけはないのだから言い伝えに聴くしかありません。ローマカトリックの伝統では西暦 67 年 6 月 29 日がかれらの命日です。その日を殉教日と信じて今年も彼らの記念礼拝を世界中でおこなっています。一方はガリラヤの田舎生まれの漁師ペトロ、かたや小アジア（いまのトルコ）のタルソ生まれ、律法を学ぶためにエルサレムへの留学経験もありローマの市民権も持っていたサウロことパウロ。生まれも育ちも違う、性格も人格も違うこの二人の男が同じ日に刑死しました。キリストの名のゆえに、今から 1947 年前に殉教したのです。神の祝福がありますように。

イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。16:15-16